

ユーホーム

U-Home

だより

〒708-1222
岡山県津山市西中 329-1

株式会社 **ユーホーム**

TEL 0868-36-4372

FAX 0868-36-4498

✉ u-home@mx1.tvt.ne.jp

第 59 号

謹んで初春のお慶びを申し上げます

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます
年も変わらぬ お引き立てのほど、よろしくお願い
申し上げます



今年はいったいどんな年になるのか？誰しもが非常に関心のあるところですが、誰にもわかりません。

ならばこの混沌とした世の中であって自分自身はどうあるべきか？

毎年歳を重ねてくると、若い時には考えもしなかったことを色々と考えるようになってきます。40歳くらいになって、今ちょうど人生の折り返し地点かな？などとうすぽんやりと思ってみたりします。それが今のように還暦に近くなって来るとビックリ！あれほど遠くに霞^{かす}んでいたゴールがはっきりと捕えられるくらいの近さに見えてきます。

日々の生活の中では忙しさに紛れてそんなことは考えもしないのに、この正月ののんびりとした時間の中でなぜかそんなことを考えてしまいます。まさにこれが歳をとっている証拠ですね。

今年はどうあるべきか？



やはりそこは私も経営者の端くれ、まず会社のこと中心になってくるのは否^{いな}めないことです。

なんといっても一番の希望は、景気がどんどん良くなり、どんどん仕事が増え収益が増えることです。しかしながら景気が良くなったとしても勝手に収益が増えるわけではありません。ユーホームは昨年の反省を踏まえながら、どこを直して、どこを良くして、どこを工夫してお客様の満足を獲得するか・・・？

毎日を一生懸命生きていると、いつもは気にかけていることでもつい緊張感が薄れてしまい、ついお客様にご不快な思いやご不便をおかけすることがあるやもしれません。

弊社では従業員のあり方について、《従業員心得》という形でまとめたものを配り、半年に一度は定例会で再確認をするというやり方で、慣れからくる緊張感の薄れを無くすよう取り組んでいます。

それは当然として、さらに何か工夫する点はないだろうか？

かの有名な松下電器創始者の松下幸之助さんは、常に従業員に対しこう言っていた。

「松下電器は何を作っているところかと尋ねられたら、人を作っているところだと答え、しかる後に、電器製品も作っておりますと答えていただきたい」

やはり会社とは人なんです。人を作らないと良い会社にはならない。しかし社員を^{りっ}過ぎると息が詰まる。延々と続く難しい問題に今年も立ち向かって努力し、より良いものをより安く上質のサービスとともにお客様にお届けし、お客様に喜んでいただきたいと考えておりますので本年もよろしくお願い申し上げます。

日本ミツバチの飼育 (その12)

前回は、通常の日本ミツバチの分蜂は春先のはずなのになぜか夏も終わり秋の気配が漂う頃に突然入居した群れが、まだ十分越冬の^{たくわえ}蓄えをしていないうちに冬になってしまい、ものすごい勢いで群れの数を減らし、あわや全滅か？と思えるほどになったので、砂糖水で^{きゅうじ}給餌したところ意外やだんだんと群れは勢いを取り戻して行きました。

3月に入るとあちこちで春の花が咲き始め給餌しなくても群れはだんだん大きくなり、たくさんのミツバチのためハッキリとは見えませんが、巣自体も明らかに大きくなってきました。

日本ミツバチの^{ぶんぼう}分蜂とはいったいどんなものか？いつ起こるのでしょうか？

4月10日 巣箱の出入口の下に地面に何か丸い巣くずの様なものが落ちています。

これがうわさに聞く^{おすばち}雄蜂の^{ふた}巣蓋です。雄蜂の誕生が確認できたわけではす。



1月18日



2月27日

通常は雄蜂が生まれてから約一週間くらいで分蜂がはじまるらしい。
明らかにひと回り大きく真っ黒な雄蜂が時々巣門を出入りしています。

4月14日 毎日数十個の巣蓋が落ちているそろそろ分蜂が始まるかも？

この巣のわずか2mくらい横に巣箱を設置して待っています。

日本ミツバチの分蜂時の偵察蜂のみがまるで狂ったように集まるという「キンリョウヘン」というランの花も咲きました。
なるほど確かに花の回りにはたくさんの蜂が飛び回っています。写真では見えにくいですが巣箱にはしきりに偵察蜂が出入りして巣箱の居住性を確かめているようです。

4月18日 ついにその時はやってきました。

昼食をとってから見に行くと、まだ何も変わらぬ様子でした。事務所に戻ろうとして振り返りかけた時に分蜂が始まりました。おそらく万の数の蜂が塊^{かたまり}となって巣箱から出てきて、吸いつくようにすぐ隣にある巣箱とキンリョウヘンにたかります。景色が煙ったように見えるほどのミツバチの乱舞はまさにスペクタクルです。大自然の営みがいま目の前で繰り広げられています。スゴイ！の言葉しか出てきません。

巣門の回りの蜂の塊やキンリョウヘンにたかった塊は見る見る巣門から巣箱の中に吸い込まれて行きます。煙たいほどあたりを飛び交っていた蜂もそのうちには巣箱に納まって行きました。



3月27日



4月14日落下防止の針金が見えなくなるほど大きくなりました



直径約5mm位の雄蜂の巣ふた



ひときわ大きいのが雄蜂



偵察蜂が盛んに出入りしています

ぶんぼう

分蜂期になると巣箱の中では、巣の先端に王台が作られます。王台はローヤルゼリーで満たされています。王台に産み付けられた蜂はローヤルゼリーのペーストの中で育てられます。（働き蜂は生まれた一時的にだけローヤルゼリーを与えられ、そののちは花粉やハチミツで成長します。）新しい女王が誕生すると、もともと居た女王は家来を約半数引き連れて出てゆきます。これが分蜂です。

私は便宜上^{べんぎ}巣箱に名前を付けました。最初から紹介していた元巣を「西中第1」、今回の分蜂で入居した巣を「西中第2」としました。

4月20日 「西中第1」から出される巣ふたが止まりません。今日も100以上落ちています。ひょっとするとまた分蜂があるかもしれません。そこで会社敷地の東側に巣箱「西中第3」とキンリョウヘン^{ていさつ}を設置して待ちました。すぐに偵察蜂がやってきました。

4月22日 本日昼過ぎに「西中第1」からまた分蜂がありました。またまたおびただしい数の蜂で辺りは煙ったようになりました。当然「西中第3」に入るものと思っていたら群れは大きく分散しながら、北東の方へと飛んで行ってしまいました。



ミツバチは体温が高いため大量の蜂がたかると花が枯れてしまうのでネットをしています。

《お知らせ》

おそらく今年も分蜂があるものと予想します。しかし花が少なくこの地でこれ以上の群れを飼育することは出来ません。そこでお願いがあります。この春に分蜂群を捕獲できたらその巣箱を置かせていただけないでしょうか。

【設置場所の条件】 少し高く見晴らしの効く場所で、風通しが良く、適度な日影と目印となる大きな木があり、比較的近くに水辺があるところ。そして私が自由に観察に行くことができる場所。（すべて揃うのはほぼ無理です。）

【設置の条件】 収穫したハチミツは半分ずつ山分けとします。

その他巣箱の設置・継ぎ箱等の管理・収穫は全て私がします。

日本ミツバチは気分次第でいとも簡単に逃亡します。天敵のスミシヤやオオスズメバチにやられて全滅する可能性があります。ミツバチたちを快適に越冬させるためにたくさんのハチミツを残してやる必要があります。ですから運が悪ければ収穫がゼロの可能性もあります。

しかし、条件が良ければ初年度から4～5リットルのハチミツに恵まれるかもしれません。

いずれにしても、ミツバチたちはめっちゃくちや可愛く、癒^{いや}されること間違いありません。

我はと思われる方はぜひユーホームまでご連絡をください。

平成28年1月6日